



令和5年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和4年11月14日

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム
コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 勝人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員社長室長 (氏名) 山田 秀樹

TEL 0256-33-3987

四半期報告書提出予定日 令和4年11月14日

配当支払開始予定日

令和4年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年3月期第2四半期の連結業績(令和4年4月1日～令和4年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年3月期第2四半期	38,318	8.5	650	3.0	688	3.9	402	4.4
4年3月期第2四半期	35,331	6.7	670	10.5	716	11.2	420	15.6

(注) 包括利益 5年3月期第2四半期 375百万円 (23.4%) 4年3月期第2四半期 490百万円 (15.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
5年3月期第2四半期	42.72	
4年3月期第2四半期	44.68	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
5年3月期第2四半期	21,318	9,162	43.0	973.32
4年3月期	21,377	8,852	41.4	940.39

(参考) 自己資本 5年3月期第2四半期 9,162百万円 4年3月期 8,852百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
4年3月期	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
5年3月期		7.00		7.00	14.00
5年3月期(予想)		7.00		7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年3月期の連結業績予想(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	76,800	5.6	1,500	5.7	1,580	4.3	970	21.5	103.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	5年3月期2Q	10,833,000 株	4年3月期	10,833,000 株
期末自己株式数	5年3月期2Q	1,419,227 株	4年3月期	1,419,227 株
期中平均株式数(四半期累計)	5年3月期2Q	9,413,773 株	4年3月期2Q	9,413,811 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の普及による重症化リスクの低減から行動制限が緩和され、経済活動の回復がみられたものの、日米金利差拡大等による急激な円安とウクライナ情勢等の影響によるエネルギー価格や原材料価格の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品小売業界におきましても、業態を超えた競争が激化する中で、相次ぐ値上げによる消費者の節約志向の高まりや、光熱費の上昇及び人件費関連コストの増加など厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは令和3年度より『IDEA & INNOVATIONで、新たな価値をつくる』を中期経営計画のテーマに掲げ、特にデジタル面の取り組みを強化することで刻々と変化する社会環境とお客様のニーズへの対応に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は383億18百万円（前年同期比8.5%増）、営業利益は6億50百万円（前年同期比3.0%減）、経常利益は6億88百万円（前年同期比3.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億2百万円（前年同期比4.4%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、相次ぐ値上げの影響により客単価は上昇したものの、新型コロナウイルス感染症による制限も徐々に緩和され、外出機会の増加を背景に内食需要は減退傾向にあり集客数は伸び悩みました。しかしながら、当社の特色である非生鮮部門は買い上げ点数も前年を上回り、引き続き好調に推移いたしました。

なお、7月には、人気のある非生鮮部門を拡張し買い回りしやすい売場に刷新した「チャレンジャー巻店」（新潟市西蒲区）を移転オープンしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は121億89百万円（前年同期比0.2%増）、セグメント利益は光熱費高騰の影響により2億40百万円（前年同期比17.2%減）となりました。

(業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、「アジアフェア」や「本格中華」などの企画コーナーを設け魅力ある売場づくりと、品揃えの適正化や売れ筋商品の販売機会ロスの軽減などに努めました。商品動向としては利便性の高い冷凍野菜やイベント時に需要の高い鶏肉加工品などが好調に推移しました。また、引き続き多くのメディアなどで紹介されたこと、地域のお祭りやイベントなど業者向けの需要が回復基調にあることや前年度に6店舗出店したことなども大きく影響し、売上高は大幅に増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は192億73百万円（前年同期比16.0%増）、セグメント利益は5億47百万円（前年同期比17.5%増）となりました。

(弁当給食事業)

事業所向け宅配弁当につきましては、日替わりメニューの内容を見直し、味と品質の向上に努めているものの、中食との競合や喫食者ニーズの多様化により販売食数は伸び悩みました。また、原材料価格及び配送費の上昇が想定していたお弁当の値上げ幅を上回る勢いとなっており、更なる販売価格の改定を進めてまいりました。

惣菜等の受託製造を行っている千葉工場につきましては、取り扱う商品のアイテム数と受託先の販売店舗数が増加したことにより売上高も大幅に増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は43億73百万円（前年同期比7.4%増）、セグメント利益は原材料価格や光熱費などの高騰により1億18百万円（前年同期比39.2%減）となりました。

(食材宅配事業)

食材宅配事業につきましては、販促チラシのポスティングと顧客への訪問の再開に加えてWeb広告による宣伝活動に注力しました。また、9月にフランチャイザーが「ヨシケイ 秋のミールキット祭り 2022」と称し、著名タレントを起用してのコラボミールキットの発売と新CMを全国でオンエアし、知名度の向上を図るものの、一般家庭向け食材セット販売につきましては新規顧客の獲得は伸び悩み、売上高は前年を割り込みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は22億56百万円（前年同期比3.1%減）、セグメント利益は69百万円（前年同期比13.5%減）となりました。

(旅館、その他事業)

旅館、その他事業につきましては、行動制限が緩和されたことや観光需要喚起策「県民割」の実施により個人利用が増加したほか、団体利用にも一部回復が見られましたが、外食需要も含めコロナ禍以前までの回復には至りませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は2億24百万円（前年同期比49.9%増）、セグメント損失は15百万円（前年同期はセグメント損失58百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ59百万円減少し、213億18百万円となりました。これは主に、チャレンジャー巻店の移転に伴い建物が5億9百万円、商品が2億38百万円及び投資その他の資産に含まれる差入保証金が1億31百万円増加したものの、現金及び預金が9億56百万円減少したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ3億69百万円減少し、121億55百万円となりました。これは主に、長期借入金金が3億43百万円減少したことによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億10百万円増加し、91億62百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が31百万円減少するものの、利益剰余金が3億36百万円増加したことによるものです。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.6ポイント上昇し、43.0%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ9億56百万円減少し、25億36百万円となりました。この主な要因につきましては、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果取得した資金は4億17百万円（前年同期は86百万円の取得）となりました。

主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益6億59百万円及び減価償却費4億51百万円であり、主な減少要因は、法人税等の支払額2億91百万円、棚卸資産の増加額2億57百万円及び未払消費税の減少額1億10百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は9億57百万円（前年同期は4億1百万円の支出）となりました。

主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出7億61百万円及び敷金及び保証金の差入による支出1億68百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は4億16百万円（前年同期は2億55百万円の取得）となりました。

主な増加要因は、短期借入金の純増額4億9百万円であり、主な減少要因は、長期借入金の返済による支出6億23百万円、リース債務の返済による支出1億36百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年5月13日の「令和4年3月期 決算短信」で公表いたしました連結及び個別の業績予想につきましては、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和4年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,622,205	2,665,882
売掛金	2,483,522	2,434,918
商品	1,848,974	2,087,452
原材料及び貯蔵品	150,155	169,198
その他	551,273	610,153
貸倒引当金	△1,762	△1,805
流動資産合計	8,654,370	7,965,799
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,186,258	5,745,925
土地	3,196,126	3,198,858
その他(純額)	1,462,331	1,466,928
有形固定資産合計	9,844,715	10,411,712
無形固定資産		
のれん	55,129	23,149
その他	255,812	258,120
無形固定資産合計	310,942	281,269
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	41,365	39,793
その他	2,528,324	2,621,261
貸倒引当金	△2,000	△1,647
投資その他の資産合計	2,567,689	2,659,406
固定資産合計	12,723,347	13,352,389
資産合計	21,377,718	21,318,189
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,162,054	4,180,919
1年内償還予定の社債	600,000	600,000
短期借入金	1,247,855	1,377,172
未払法人税等	326,935	275,923
賞与引当金	220,501	232,056
資産除去債務	33,859	28,700
その他	1,960,274	1,774,355
流動負債合計	8,551,480	8,469,127
固定負債		
長期借入金	2,002,008	1,658,144
リース債務	578,580	619,624
退職給付に係る負債	891	1,291
役員退職慰労引当金	184,030	155,610
資産除去債務	835,026	891,297
その他	373,095	360,446
固定負債合計	3,973,631	3,686,414
負債合計	12,525,111	12,155,541

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和4年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	8,461,348	8,797,616
自己株式	△1,169,721	△1,169,721
株主資本合計	8,460,119	8,796,386
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	415,039	383,881
退職給付に係る調整累計額	△22,552	△17,620
その他の包括利益累計額合計	392,486	366,260
純資産合計	8,852,606	9,162,647
負債純資産合計	21,377,718	21,318,189

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
売上高	35,331,098	38,318,191
売上原価	27,115,313	29,685,998
売上総利益	8,215,785	8,632,192
販売費及び一般管理費	7,545,312	7,982,046
営業利益	670,472	650,146
営業外収益		
受取利息	10	13
受取配当金	2,430	30
受取家賃	16,531	18,726
受取機器使用料	11,375	13,083
その他	46,943	29,969
営業外収益合計	77,292	61,823
営業外費用		
支払利息	10,091	11,038
障害者雇用納付金	5,975	9,350
その他	15,352	3,235
営業外費用合計	31,418	23,624
経常利益	716,346	688,345
特別利益		
受取保険金	—	13,140
投資有価証券売却益	8,006	—
特別利益合計	8,006	13,140
特別損失		
固定資産除却損	14,948	38,478
その他	2,898	3,316
特別損失合計	17,847	41,795
税金等調整前四半期純利益	706,505	659,689
法人税、住民税及び事業税	243,638	242,220
法人税等調整額	42,230	15,304
法人税等合計	285,869	257,525
四半期純利益	420,635	402,164
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	420,635	402,164

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
四半期純利益	420,635	402,164
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	65,933	△31,158
退職給付に係る調整額	4,098	4,932
その他の包括利益合計	70,031	△26,226
四半期包括利益	490,667	375,937
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	490,667	375,937
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	706,505	659,689
減価償却費	430,594	451,839
のれん償却額	34,041	34,280
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△6,560	△28,420
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△915	△308
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△821	11,555
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△300	△300
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	2,013	1,572
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	343	399
受取利息及び受取配当金	△2,441	△44
受取保険金	—	△13,140
支払利息	10,091	11,038
投資有価証券売却損益 (△は益)	△8,006	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△507,636	48,296
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△101,245	△257,520
未収入金の増減額 (△は増加)	18,076	614
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△59,920	△59,787
仕入債務の増減額 (△は減少)	△111,052	18,865
未払消費税等の増減額 (△は減少)	67,701	△110,609
未払費用の増減額 (△は減少)	△9,434	△5,647
預り保証金の増減額 (△は減少)	14,635	△7,876
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△147,190	△84,114
その他	38,488	35,401
小計	366,965	705,784
利息及び配当金の受取額	2,443	45
保険金の受取額	—	13,140
利息の支払額	△10,080	△10,750
法人税等の支払額	△273,488	△291,134
法人税等の還付額	659	537
営業活動によるキャッシュ・フロー	86,498	417,622
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10,000	△10,000
定期預金の払戻による収入	15,066	10,000
有形固定資産の取得による支出	△441,669	△761,749
投資有価証券の売却による収入	96,725	—
無形固定資産の取得による支出	△40,173	△23,603
資産除去債務の履行による支出	—	△5,374
出資金の払込による支出	△100	—
敷金及び保証金の差入による支出	△20,829	△168,915
敷金及び保証金の回収による収入	150	2,056
長期前払費用の取得による支出	△552	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△401,384	△957,588

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	900,742	409,316
リース債務の返済による支出	△97,642	△136,075
長期借入金の返済による支出	△444,224	△623,864
配当金の支払額	△103,126	△65,735
財務活動によるキャッシュ・フロー	255,749	△416,358
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△59,136	△956,324
現金及び現金同等物の期首残高	2,482,754	3,493,321
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,423,618	2,536,997

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	12,161,323	16,621,167	4,070,344	2,328,132	150,131	35,331,098	—	35,331,098
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	222	368	137,348	126	338	138,404	△138,404	—
計	12,161,545	16,621,536	4,207,692	2,328,258	150,470	35,469,503	△138,404	35,331,098
セグメント利益 又は損失(△)	290,582	465,893	194,344	80,044	△58,121	972,743	△302,271	670,472

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△302,271千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△301,102千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	12,189,861	19,273,758	4,373,048	2,256,544	224,978	38,318,191	—	38,318,191
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	683	3,085	199,170	107	714	203,761	△203,761	—
計	12,190,544	19,276,843	4,572,218	2,256,652	225,693	38,521,952	△203,761	38,318,191
セグメント利益 又は損失 (△)	240,597	547,638	118,233	69,246	△15,443	960,272	△310,126	650,146

(注) 1 セグメント利益又は損失 (△) の調整額△310,126千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△310,065千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

I 前第2四半期連結累計期間（自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	
一時点で移転される財又はサービス	12,108,588	16,513,690	4,022,330	2,326,932	150,131	35,121,673
一定の期間にわたり移転される財 又はサービス	—	87,700	46,514	1,200	—	135,414
顧客との契約から生じる収益	12,108,588	16,601,390	4,068,844	2,328,132	150,131	35,257,087
その他の収益	52,734	19,776	1,500	—	—	74,011
外部顧客への売上高	12,161,323	16,621,167	4,070,344	2,328,132	150,131	35,331,098

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	
一時点で移転される財又はサービス	12,139,578	19,162,285	4,328,724	2,255,344	224,978	38,110,912
一定の期間にわたり移転される財 又はサービス	—	91,800	42,824	1,200	—	135,824
顧客との契約から生じる収益	12,139,578	19,254,085	4,371,548	2,256,544	224,978	38,246,736
その他の収益	50,282	19,672	1,500	—	—	71,455
外部顧客への売上高	12,189,861	19,273,758	4,373,048	2,256,544	224,978	38,318,191